



公益社団法人

日本工学アカデミー

THE ENGINEERING ACADEMY OF JAPAN

第4回日豪若手先端研究者による環学的新学術フォーラム2024

The 4th ERLEP Trans-disciplinary Forum 2024

参加者募集要項

2024年6月3日

公益社団法人日本工学アカデミー

1. 趣旨と事業概要

日豪若手研究者交流促進事業(ERLEP, Emerging Research Leaders Exchange Program)は、2008年の日豪政府間合意に基づき、在オーストラリア日本大使館と在日オーストラリア大使館の支援の下、公益社団法人日本工学アカデミー(EAJ, Engineering Academy of Japan)、独立行政法人日本学術振興会(JSPS)ならびに豪州理工学アカデミー(ATSE, Australian Academy of Technological Sciences and Engineering)の3機関の共催として2009年～2016年にかけて実施されました。この期間に合計4回の派遣ならびに受入が行われ、派遣若手研究者の総計は64名(日本側32名、オーストラリア側32名)に上り、派遣後、共同研究の実施、共著論文の投稿など着実な交流成果を挙げてきました。日豪両アカデミーおよび関係政府機関において、この人的ネットワークが日豪の未来の国益に繋がる新しい価値を先導的に創出し、国際的・社会的にも影響力を有する持続的な組織へと成長することが期待されています。

この派遣型ERLEP事業は2016年に終了しましたが、この事業を通して形成された研究者ネットワークを持続させるため、後継プログラムとして、「日豪若手先端研究者による環学的新学術フォーラム」を立ち上げ、2017年に第1回フォーラムを福岡にて、2018年に第2回フォーラムをオーストラリア・メルボルンにて、2019年に第3回フォーラムを札幌にて開催してきました。このフォーラム型ERLEP事業では、主として派遣型ERLEP事業に参加した日豪若手研究者が運営主体となり、人類が直面しているグローバルな諸課題に対して環学的な議論を行い、提言書を取り纏め関連政府機関等へ社会発信することを目的としています。コロナ禍のため2020年から2023年まで中断を余儀なくされておりましたが、昨年、日豪両アカデミーは、ERLEP事業の再開を決定し、2024年11月に派遣型ERLEP事業とフォーラム型ERLEP事業をハイブリッドに統合した新たな第4回日豪若手先端研究者による環学的新学術フォーラムをオーストラリアで開催することといたしました。

具体的には、事前に選考された4名の若手研究者を日本からオーストラリアに予め派遣し、1週間程度にわたりオーストラリアトップレベルの3～4大学あるいは研究機関において研究交流を行います。その後、事前派遣された若手研究者は、後日程で引き続き開催される2日間のフォーラム(開催地:メルボルン)に参加するものです。一方、ERLEP事業の日豪同窓若手研究者を中心とした研究者および新しい若手研究者(日豪それぞれ10名程度を想定)がフォーラムに直接参加し、事前派遣された日本人若手研究者とともに2日間にわたり議論を

行うものです。本参加者募集要項は上記趣旨に沿って、日本から豪州へ事前派遣する研究者を公募するためのものです。この要項に従って申請書を期限までに提出された方の中から派遣者を選定します。

2. 対象研究分野

下記の3分野を対象とすることが両国間で合意されています。

- A Clean energy (hydrogen, ammonia, offshore wind power generation, etc.)
- B Decarbonization
- C Other Science and Engineering Technology

3. 申請資格

次の各号の条件を満たす者とします。

- 1) 日本国籍を持つ者または我が国に永住を許可されている外国人であって、我が国の学術研究機関等*に所属し、常勤または常勤として位置づけられている研究者であること。

*我が国の学術研究機関等：

- ① 大学、大学共同利用機関、短期大学、高等専門学校
- ② 国公立試験研究機関等
- ③ 学術研究・研究開発活動を行う独立行政法人、特殊法人、政府出資法人、一般/公益財団法人、一般/公益社団法人
- ④ 民間研究機関

- 2) すでに顕著な研究成果をあげ、将来研究リーダーとして成長することを希望している研究者であること。年齢は35歳～45歳程度を目安とします(多少前後することは構いません)。
- 3) 日豪間交流事業において幅広い議論を行えるに足る、十分な英語コミュニケーション能力を有すること。

4. 派遣予定数

4名以内。一つの研究機関から1名までとします。

5. 派遣期間

日本から豪州への派遣は、現時点では令和6年11月12日(火)出発～11月24日(日)帰国を予定しています。

令和6年11月12日(火)～11月20日(水) 派遣型ERLEP事業(訪問機関は別途調整)

令和6年11月21日(木)～11月24日(日) フォーラム型ERLEP事業(開催地:メルボルン)

諸般の事情により多少の変更が生じる可能性もあります。なお原則として派遣者全員が同じ出発便・帰国便を利用するものとします。

6. 費用負担

渡航に伴う国際航空運賃及び所属機関から最寄りの国際空港までの国内旅費、ビザ取得費用、豪州国内における移動旅費および宿泊費は、日本工学アカデミーがその規程に従って支給します。

7. 申請手続

申請受付やその後の諸手続は、日本工学アカデミーが担当いたします。所定の申請書様式に記入要領を参照して必要事項を記入し、日本工学アカデミー事務局 (E-mail: desk@ej.or.jp) あてに電子メールでお送りください。

申請締切は、令和6年6月28日(金)必着とします。

8. 選考方法と決定通知

日本工学アカデミーに設置する選考委員会が別途定める選考基準に従って選考し、決定します。選考結果は7月中旬に申請者全員に通知されます。なお、選考委員名は派遣者決定までは公表されません。

9. 派遣決定後の準備

派遣が決定した方には、7月中旬以降、豪州における訪問先などとの調整や渡航に関する諸手続など、日本工学アカデミーと豪州理工学アカデミーが連携して派遣者と連絡をとりつつ準備にあたります。

10. 豪州国内での行動

現地では、派遣型フォーラム事業として1週間程度にわたり事前に合意した訪問プログラムに従って単独で行動します。単なる大学や研究機関の訪問だけではなく、著名な研究者と研究交流を行い、国際共同研究に繋げるなど日豪研究者ネットワークを形成することを目指します。その後、メルボルンにて開催される2日間のフォーラムに参加し派遣報告を行うとともに、フォーラムに出席する日豪研究者とエネルギー・環境問題などについて環学的な議論を行います

想定されるスケジュールの例を下に示しますが、これは一例であり、派遣者や受け入れ先の事情により変更になる場合があります。

第0日(火) 夜日本発 → 第1日(水) 午前豪州着
第2日(木) ~ 第8日(水) 派遣者の希望に沿って研究機関を訪問
第9日(木) ~ 第10日(金) 第4回ERLEPフォーラムに参加
第11日(土) 夜豪州発 → 第12日(日) 午前日本着

11. 帰国後の報告等

帰国後2週間以内に報告書、経費支出明細書などを提出していただきます。書式等については後日提示いたします。また帰国後に開催を予定している報告会において、それぞれの活動内容、成果、所感、今後の運営に対する提案などをご報告願います。加えまして、事業実施後、経験者としての会議等への参加を依頼させていただきますのでご協力をお願い申し上げます。

本件に関するお問い合わせ先:

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町二丁目7番3号 HKパークビル III 2F

公益社団法人日本工学アカデミー

井上 幸太郎 (事務支援)

TEL: 03-6811-0586

FAX: 03-6811-0587

E-mail: desk@ej.or.jp